

[到達目標]

- (1) 社会人として必要な学力や教養とともに、経営学分野の基本的知識を身につけることによって、創造的で実践力のある人間を育成する。
- (2) 企業経営の諸問題に関心を持ち、その解決に積極的に取り組む姿勢を身につけることによって、豊かな感性とたくましい行動力を涵養できる。
- (3) 経営に関わる問題の解決に向けて、情報を収集・分析する能力を養い、的確な判断を行い、適切に表現する能力を身につけることによって、企業経営で生起する諸問題に取り組む能力を高めることができる。
- (4) 社会的責任を自覚し、修得した経営的知見を活用して、社会の発展に貢献することによって、人間尊重、国際化、情報化の社会を支える人材を輩出する。

1. 経営学を学ぶために**専門科目****1. 経営学とはどんな学問か**

経営学は、20世紀になって生まれた歴史の新しい学問です。経済学に比べてもはるかに若い学問です。そのため、経営学は、現在でもなお、どのような学問体系をもつのか、どのような研究方法で学ぶのか、研究対象をどのように考えるのか、などについて絶えず再検討され、発展し続けています。

経営学の歴史をたどると、企業経営活動が量的にも質的にも拡大し、各国で資本主義経済が確立し発展してきたことを背景として、今世紀の始めに、ドイツ、アメリカ、フランスにおいて生まれ、わが国にもほぼ同じ時期に導入され研究されてきたことがわかります。

ドイツでは経営経済学として、アメリカでは経営管理学として、またフランスでは一般管理学として形成され、現在までほぼ90年間に様々なアプローチ（研究接近方法）から多様な理論が発展してきました。わが国では現在、経営学はドイツ的な経営経済学と、アメリカ的な経営管理学ないし管理組織学とを2大潮流としつつ、1970年代に急速に台頭してきた日本経営論を加えて研究が発展しています。

それでは、経営学は、今日、どのような基本的性格をもち、どのような研究対象と研究方法をもっているのでしょうか。

第1に大切なことは、経営学は企業経営を固有の研究対象とする学問であり、経済学とは異なった独立の社会科学であることです。経済学が全体経済の法則性を研究するのに対して、企業数の増加や企業の大規模化、企業組織の複雑化、企業の社会的影響力の増大などを通じて資本主義経済が高度化してくると、経営学でなくては解決しえない問題が生じてきたのです。その場合、企業は、単に経済的機能を果たす単位体としてのみ把握されるのでは十分ではありません。利潤をはじめとして多様な目的を追求する組織体であり、統一的な意思によって指揮される継続的な事業体であるところに特徴があるのです。今日では、企業は、意思決定システムとか、目的設定システムとか、あるいは情報システムなどと多面的にとらえられています。このように、経営学は、企業を多様な特性をもつ組織体として研究しています。

ところで第2に、企業経営を研究する学問が経営学であるとしても、それが一つの科学として成立するためには、私達が日常的に経験しうる対象である企業経営を、一定の考え方（公理）によって科学的に認識しうる対象に鍛え上げることが必要になります。つまり経営学の研究方法をしっかりとつかむことが大切であるわけです。企業経営は、意識的な人間行動によって行われるものですから、企業経営を社会的存在一般としてのみとらえ、その存在の本質やそれらの間の相互関係、あるいは企業経営を支配する法則の認識を目的とする研究方法（理論科学の方法）だけでは不十分でしょう。その方法を基礎としながらも、企業経営が意識的な人間行動であることを重視し、その実践的な側面を取り上げて、企業経営の目的達成を合理的に行うための行動原理や方法を明らかにする研究方法（実践科学の方法）を通じて、実践的理論科学として経営学を研究することが大切なのです。

2. 経営学科で学ぶために

2・1 何を学ぶのか

規制緩和、海外企業の日本進出、環境問題への対応など、現代日本の企業社会には、多くの課題が山積みしています。また現代の経営人には、ネットワーク化、グローバル化が進む企業社会の複雑なシステムや機能を理解し、対応する能力が求められています。これらに対応するため経営学科では平成21年度入学生には「経営コース」・「会計コース」・「情報経営コース」の3コース、また平成20年度以前入学生には「経営学」・「会計学」・「ビジネスコミュニケーション」の3分野からなるカリキュラムを構成して、その中で各自の興味や進路に応じてユニットを選択できるようにしています。企業経営だけでなく、その背後にある人間行動の原理や方法を探ることで、激変している現代企業社会を生き抜くことのできるたくましいビジネスマインドをもった経営人を育成することを目標としています。

今後の日本を背負って活躍する人材（人財）が必要とされています。経営学科では、企業の多様な組織の中で、たくさんの方が協働する目的を率先して創り出し、リーダーシップを発揮して、仕事を効率的・合理的に推進できるように、人間関係を大切に経営人の育成を目指しています。具体的には、グローバル化の中で、北海道というローカル（地域）を考え、モノづくりと生活づくりを発展させるため、創造性と構想力を活かすことができる人材、さらにアジア地域で国際的に活動できる人材、また企業活動だけでなく、ビジネスマインドをもって行政やNPO（非営利組織）などでも活躍できる人材を目指して学びます。

2・2 カリキュラムの特色

平成21年度から経営学部では経営学科1学科への移行に伴いカリキュラムを変更し、コース制を導入しました。

コースは経営コース、会計コース、情報経営コースの3コースです。経営コースでは経営とは何かという経営に関する理論を学ぶとともに、人事や管理などの企業経営の実務的な知識なども学びます。また、現代はいわゆる国際化の時代であるともいわれますので国際的な視点からも企業経営について勉強します。会計コースでは将来、職業会計人になるために必要な会計に関する理論的な勉強をするとともに、企業の会計を実際に処理するのに必要な実務的な処理能力を養成します。情報経営コースでは現在の社会生活に必要不可欠となったコンピュータに関する勉強をするとともに、情報自体が経営資源の一つであるといわれることをふまえて、情報と経営との関わり、あるいは情報を媒介としたビジネスの展開などを勉強します。

Iセメスターの「入門演習Ⅰ」とⅡセメスターの「入門演習Ⅱ」では、少人数によるゼミナール形式で大学での勉強の仕方や勉強に関する基礎的な素養を修得します。Ⅳセメスターの「専門ゼミナールⅠ」は全員が履修しなければなりません。これらのゼミナール形式の授業によって少人数で勉強する楽しさを知ることができます。

平成21年度入学生からは、卒業要件における専門科目の必要修得単位数を64単位以上と以前よりも引き下げましたが、これは、共通科目も十分に勉強していただきたいという配慮からです。共通科目も十分に勉強して社会人としての基礎的な素養を十分に身につけて卒業していただきたいと思います。

3. 経営学科の専門教育カリキュラムの特色と履修上の注意

平成21年度から経営学部ではコース制の導入に伴いカリキュラムを変更しました。コースは経営コース、会計コース、情報経営コースの3コースです。IセメスターとⅡセメスターで各コースに関連した基礎的な必修科目14単位を修得した後、Ⅲセメスター以降は選択必修科目から12単位以上、各自選択したコース科目から14単位以上修得する必要があります。自分の卒業後の進路あるいは興味や関心などを考えて、選択したコースを中心にした履修計画を立てる必要があります。また、ⅦセメスターまたはⅧセメスターでは「卒業研究」の2単位を修得しなければなりませんので、入学時から4年間真面目に勉強する必要があります。経営学部で配置している専門科目は基礎的な科目から応用的な科目へという流れで配置してありますので、真面目に努力すれば着実に力をつけることができます。真面目に勉強するという気持ちを忘れずに履修してください。

4. 特別ゼミナール・専門ゼミナールについて

4・1 ゼミナールの意義

ゼミナールは、学生諸君が大学に入って初めて経験する学修形式の一つです。「講義」では教員が教壇からそれぞれの学問を教育・伝達するという、学修形式が一般的ですが、「ゼミナール」は、教員と学生が同じ机を囲んで、研究テーマについて、報告・質疑応答・討論を行って全員で研究を進める学修形式です。

したがって「ゼミナール」は、「講義」がともすれば情報の一方的伝達に陥りやすいのに対して、教員と学生間、学生同士の知的交流が促進されるとともに、学生諸君の自主的研究を進めることができます。また、このようななかで他の人の意見を正確に理解し、自分の考えをまとめ、それを他の人に的確に伝えるという、いわゆる現代社会で非常に必要とされているコミュニケーション能力を身につけることができます。また「ゼミナール」を通じて教員との人間的ふれあい、学生同士の人間的交流も深められ、人格形成や人間関係づくりもできます。このように「ゼミナール」は大学では最も重要なものの一つですので、学生諸君には必ず「ゼミナール」を履修することを勧めます。

ところでⅠ Semesterで入門演習（必修）が開設されていますが、ここでは大学での学修に慣れて学修がスムーズにできるように基礎的な力（表現力を含む）を養成し、また学問的興味をもってもらうことを目的としています。「専門ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」では2年次から4年次までⅣ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ Semesterにわたりじっくりと専門的なテーマで学修・研究を行います。「専門ゼミナール」で専門的なテーマの学修・研究を行うためには、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ Semesterで経営学等の基礎を身につけて置くことが必要ですので、よく考えて専門科目を体系的に履修することが重要です。

早く「ゼミナール」を体験したい場合は、Ⅲ Semester（2年次春学期）以降に特定のテーマで短期の「特別ゼミナール」がありますので、積極的に履修することを勧めます。

また、「入門演習」・「専門ゼミナール」の指導教員は、それを履修している学生のアドバイザーになり、履修・学修・進路指導も行うことになっています。

教員は、それぞれオフィスアワーを設けていますので、何か相談がある場合は積極的にアドバイザーになっている教員の研究室を訪ねてください。

4・2 専門ゼミナールと特別ゼミナールの履修方法

「専門ゼミナール」は、原則として「専門ゼミナールⅠ」、「専門ゼミナールⅡ」、「専門ゼミナールⅢ」、「専門ゼミナールⅣ」、「専門ゼミナールⅤ」にわたり継続履修することになっています。きちんと出席し、学修・研究活動などゼミナール活動を継続すれば、卒業までに合計10単位が修得できます。

Ⅶ SemesterとⅧ Semesterで「専門ゼミナールⅣ」・「専門ゼミナールⅤ」を履修しない場合は、Ⅶ SemesterとⅧ Semesterで専門科目から各4単位（合計8単位）以上を修得しなければ卒業できません。この点からも、「専門ゼミナール」を履修することが望ましいのです。

ところで「専門ゼミナール」は、学生諸君が自由に選択して履修できるのですが、ゼミナールの性格上（人数ややる気などの問題）、ゼミナールの指導教員の許可が無ければ履修できません。特定のゼミナールに希望者が殺到するような場合などは、何らかの方法で選抜が行われます。したがって志望ゼミを選択する時には、自分の興味・進路・志望と各ゼミナールの応募状況をよく考慮することが大切です。「専門ゼミナール」は、なるべく多く開講し学生諸君全員が履修できるように用意してありますので、第一志望でなくてもあきらめず応募し履修することを勧めます。

5. 他学部履修について

共通科目には、経営学を周辺で支えている隣接学科の科目が配置されています。また経営学の勉強をさらに深め・拡大して、さらに隣接科目の学修を希望する場合は、「他学部履修」制度にもとづき、経営学部の開設・開講科目だけでなく経済学部、外国語学部、法学部、文化学部の開設・開講科目を履修できます。

他学部の専門科目は22単位まで、自学部の専門選択科目として加算されます。

6. 共通科目について

「共通科目」には、様々な学問領域の科目が用意されています。共通科目は全学部の協力体制で運営されています。したがって、共通科目の講義では、他学部の学生と一緒に授業を受けることになります。

英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語）や体育も、共通科目の中で開設されています。

6・1 外国語科目

外国語科目のうち、1言語6単位を修得することが卒業要件です。実際には、専門科目が本格的に展開される前の、I、IIセメスター（1年次）で、1言語8単位を履修してください。また、上級学年でも、引き続き外国語を学修できるよう、発展科目も用意しています。

英語に関しては、「共通英語コミュニケーション」「共通英会話」がそれぞれ、入門・初級・中級・上級と、4つのレベルで開設されています。「共通英語コミュニケーション」「共通英会話」ともに同じレベルのものを、IIセメスターでそれぞれ選択して履修してください。なお、「入門」は英検4-5級程度の基礎から、「初級」は中学校の内容のマスターを前提とした英検3級程度、「中級」は高校の基本をマスターした英検準2級程度、そして「上級」は高校の内容を前提とした英検2級程度を目処に授業展開を行います。

なお、共通科目以外でも、学部独自の英語科目などを開設していますので、それらも履修し、より高度な語学力を身につけるよう努力してください。

■ 2. 履修のしかた

経営学科

(1) 専門科目

専門科目の履修のしかたは、次のとおりです。

- ① 専門科目は、必修科目をⅠ Semesterで開講の3科目6単位、Ⅱ Semesterで開講の3科目8単位、ⅦまたはⅧ Semesterで開講の1科目2単位合計16単位を修得しなければなりません。
- ② 選択必修科目は、12単位以上修得しなければなりません。
- ③ 各自、選択したコース科目から、14単位以上修得しなければなりません。
- ④ 専門科目は、上記の必修科目と選択必修科目およびコース科目と選択科目合わせて64単位以上を修得しなければなりません。
- ⑤ ⅦおよびⅧ Semesterにおいて専門ゼミナールⅣおよび専門ゼミナールⅤを修得するか、または両 Semesterで専門科目から各4単位以上を修得することを卒業要件とします。
ただし、卒業年次を超えた学生に関しては、当該 Semesterにおいて専門科目から2単位以上を修得し、4年次において専門科目から合計8単位以上を修得する事を、卒業要件とします。

(2) 共通科目

共通科目は、基礎科目と教養科目とキャリア科目から構成されています。

共通科目は、「情報リテラシーⅠ」2単位、「入門演習Ⅰ」2単位、外国語科目（ギリシャ語、ラテン語は除く）の中から1言語6単位計10単位を含めて、42単位以上を修得しなければなりません。

- ① 基礎科目（表現力養成科目）のうち、「入門演習Ⅰ」および「入門演習Ⅱ」各2単位を履修し、「入門演習Ⅰ」2単位を修得することが卒業の要件です。
- ② 基礎科目（外国語科目）のうち、1言語8単位を履修し、1言語6単位を修得することが卒業の要件です。
- ③ 基礎科目（情報科目）のうち、「情報リテラシーⅠ」2単位を修得することが卒業の要件です。
- ④ 基礎科目（体育科目）
体育実技は4単位まで卒業必要単位数に算入することができます。

(3) 他学部履修

他学部の専門科目については修得単位は22単位まで、専門選択科目として卒業必要単位数に算入することができます。

3. 経営学科教育課程表

経営学科教育課程表

(平成21～24年度入学生に適用)

区分	学年 学科目	1年		2年		3年		4年		単位数
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
専 門 選 択 科 目	必修科目	経営学入門 2 経営学基礎 2 会計学入門 2 基礎簿記 4 情報化社会入門 2 情報処理基礎 2						卒業研究 2		合計128単位以上修得 〔共通科目 専門科目 情報リテラシーⅠ 2単位・入門演習Ⅰ 2単位・外国語科目の中から1言語6単位を含む42単位以上〕
	経営科目			経営管理総論 2 経営管理各論 2 現代企業論 2 企業社会論 2 マーケティング概論 2 マーケティング戦略 2 社会心理学 2 人間関係の心理学 2						
	会計科目			財務諸表 2 財務会計論 2 業績管理会計 2 意思決定会計 2						
	情報経営科目			情報倫理 2 インターネット概論 2 経営情報論 2 産業情報論 2						
	専門演習			専門ゼミナールⅠ 2 特別ゼミナールⅠ 2 特別ゼミナールⅡ 2		専門ゼミナールⅡ 2 専門ゼミナールⅢ 2		専門ゼミナールⅣ 2 専門ゼミナールⅤ 2		
	経営コース			人事労務管理基礎 2 人事労務管理応用 2 経営学の生成史 2 経営学の現代史 2 日本経営史 2 外国経営史 2 組織と個人 2 組織と戦略 2 観光経済論 2 国際ビジネス論 2 アジア経営論 2 生産管理論 2 市場調査論 2 集団行動の心理学 2 産業技術論 2		中小企業総論 2 中小企業各論 2 消費行動の心理学 2 環境経営学 2 信頼と取得の心理学 2 流通経営論 2 品質管理論 2 ファイナンス論 2 経営システム論 2				
	会計コース			原価計算基礎 2 原価計算応用 2 経営分析基礎 2 経営分析応用 2 会計情報論 2 会計情報システム 2 商業簿記Ⅰ 2 商業簿記Ⅱ 2 工業簿記 2						
	情報経営コース			情報処理応用 2 コンピュータネットワーク概論 2 プログラミング基礎 2 プログラミング応用 2 データベース論 2 アルゴリズム論 2 情報通信論 2 情報システム構築 2 情報メディア論 2 画像処理 2 立地環境論 2 事業構想学 2 地域のベンチャー経営 2 まちづくり経営 2 都市システム論 2		コンピュータネットワーク概論 2 情報セキュリティ 2 情報システム実習 2 Webデザイン 2 マルチメディア実習 2 Webコンピューティング 2 Webマーケティング論 2 ビジネスロジスティクス 2 施設計画論 2				
	コース共通			ビジネス英語入門 2 ビジネス英会話Ⅱ 2 ビジネス英会話Ⅰ 2 資格英語Ⅱ 2 資格英語Ⅰ 2 外国書講読Ⅲ 2 外国書講読Ⅰ 2 外国書講読Ⅳ 2 外国書講読Ⅱ 2		メディア英語 2 インターネット英語 2				
				数理学 2 経営統計学 2 経営学特別講義Ⅰ 2 経営学特別講義Ⅱ 2 経営学特別講義Ⅲ 2 経営学特別講義Ⅳ 2 ミクロ経済学 4 マクロ経済学 4		民法Ⅰ 2 民法Ⅱ 2 会社法Ⅰ 2 会社法Ⅱ 2 労働法Ⅰ 2 労働法Ⅱ 2				
			学外研修Ⅰ 2 学外研修Ⅱ 2 自主研修Ⅰ 2 自主研修Ⅱ 2							
	職業指導							職業指導論Ⅰ 2 職業指導論Ⅱ 2 情報と職業Ⅰ 2 情報と職業Ⅱ 2		

区分	学年 セメスター	1年		2年		3年		4年		単位数
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
共通科目	基礎科目	<表現力養成科目>								
		入門演習 I 2 入門演習 II 2 <外国語科目> 共通英語コミュニケーション入門 2 共通英語コミュニケーション初級 2 共通英語コミュニケーション中級 2 共通英語コミュニケーション上級 2 共通英会話入門 2 共通英会話初級 2 共通英会話中級 2 共通英会話上級 2 ドイツ語入門 I-A 2 ドイツ語入門 I-B 2 ドイツ語入門 II-A 2 ドイツ語入門 II-B 2 フランス語入門 I-A 2 フランス語入門 I-B 2 フランス語入門 II-A 2 フランス語入門 II-B 2 中国語入門 I-A 2 中国語入門 I-B 2 中国語入門 II-A 2 中国語入門 II-B 2 ロシア語入門 I-A 2 ロシア語入門 I-B 2 ロシア語入門 II-A 2 ロシア語入門 II-B 2 ハングル語入門 I-A 2 ハングル語入門 I-B 2 ハングル語入門 II-A 2 ハングル語入門 II-B 2 イタリア語入門 I-A 2 イタリア語入門 I-B 2 イタリア語入門 II-A 2 イタリア語入門 II-B 2 ラテン語入門 I 2 ラテン語入門 II 2 ギリシャ語入門 I 2 ギリシャ語入門 II 2 中国語トレーニング 2 ドイツ語初級 I 2 ドイツ語初級 II 2 フランス語初級 I 2 フランス語初級 II 2 中国語初級 I 2 中国語初級 II 2 ロシア語初級 I 2 ロシア語初級 II 2 ハングル語初級 I 2 ハングル語初級 II 2 イタリア語初級 I 2 イタリア語初級 II 2 ドイツ語中級 I 2 ドイツ語中級 II 2 フランス語中級 I 2 フランス語中級 II 2 中国語中級 I 2 中国語中級 II 2 ロシア語中級 I 2 ロシア語中級 II 2 ハングル語中級 I 2 ハングル語中級 II 2 イタリア語中級 I 2 イタリア語中級 II 2 日本語入門 I 4 日本語入門 II 4 日本語初級 I 4 日本語初級 II 4 日本語中級 I 2 日本語中級 II 2 日本語 I 4 日本語 II 4 日本語応用 I 2 日本語応用 II 2 <情報科目> 情報リテラシー I 2 情報リテラシー II 2 <体育科目> 体育実技 1								
科目	教養科目	<I類> (世界とわれわれ)								
		政治入門 2 歴史入門 2 異文化交流論 2 企業経営問題の最先端 2 国際関係論 2 国際交渉論 2 アジア経済論 2 アジア社会論 2 日韓関係の歴史 2 日中関係論 2 ロシア社会論 2 近世・近代の欧州 2 現代アメリカの経済と社会 2 国際政治学 2 西欧庶民生活の原像 2 西洋近世近代史 2 ヨーロッパ文明史 2 アクティブ・ラーニング 2 <II類> (現代社会と人間) 北海道学入門 2 法律入門 2 経営史概論 2 考古学への誘い 2 社会学入門 2 生活と文化 2 福祉社会論 2 歴史学概論 2 歴史と現代 2 現代社会と経済 2 現代社会と政治 2 政治学の基礎 2 法の基礎 I (憲法) 2 法の基礎 II (民法) 2 アイヌの歴史と社会 2 社会起業家論 2 先史学と北海道 2								

区分	学年		1年		2年		3年		4年		単位数	
	セメスター		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII		
共通科目	教養科目	<Ⅲ類> (自然理解と情報)										
		数学入門 2	環境問題入門 2	解析基礎 2	科学技術論 2	自然と哲学 2	天文学への誘い 2	自然科学概論 2	統計学基礎 2	論理学概論 2	自然環境論 2	身体論 2
共通科目	教養科目	<Ⅳ類> (人間と表現)										
		健康論 2	自然環境の科学 2	人体論 2	動物の行動 2	社会と情報 2	情報技術論 2	情報デザイン論 2	哲学入門 2	心理学入門 2	近現代哲学 2	現代思想 2
共通科目	教養科目											
		言語学概論 2	文学と文化 2	日本語表現法 2	文学とジェンダー 2	日本語通論 2	文学と現代社会 2	文学とジェンダー 2	音楽通論 2	楽器表現論 2	芸術論 2	心身実習A 2
共通科目	教養科目											
		西洋美術史 2	スポーツと文化 2	表現と文化 2	キャリアアップ入門Ⅰ 2	キャリアアップ基礎Ⅰ 2	キャリアアップ応用 2	キャリアアップ入門Ⅱ 2	キャリアアップ基礎Ⅱ 2			
備考												
<ol style="list-style-type: none"> 1年次において入門演習Ⅱ（共通科目）および原則として2年次において専門ゼミナールⅠを履修しなければならない。ただし、修得を卒業要件としない。 1年次において外国語科目の中から（ギリシャ・ラテン語を除く）1言語8単位を必ず履修しなければならない。ただし、6単位以上の修得を卒業要件とする。 選択必修科目は合計12単位以上修得すること。 選択したコースから合計14単位以上修得すること。 ⅦおよびⅧセメスターにおいて専門ゼミナールⅣおよび専門ゼミナールⅤを修得するか、または両セメスターで専門科目から各4単位以上を修得することを卒業要件とする。 ただし、卒業年次を超えた学生に関しては、当該セメスターにおいて専門科目から2単位以上を修得し、4年次において専門科目から合計8単位以上を修得する事を、卒業要件とする。 職業指導論Ⅰ・Ⅱおよび情報と職業Ⅰ・Ⅱは卒業必要単位数に算入する。 他学部他学科履修における専門科目の修得単位は22単位まで、専門選択科目として卒業必要単位数に算入できる。 体育実技は、4単位まで卒業必要単位数に算入できる。 												

(札幌大学学則 別表第5-(ア))